

京都国立博物館

だより

二〇一五年
一二三月号



KYOTO NATIONAL MUSEUM

2025 January to March, vol. 225



日本、美のるつぼ——異文化交流の軌跡

〔予告〕大阪・関西万博開催記念

特別展

雛まつりと人形

特集展示

名刀再臨——時代を超える優品たち——

特別公開

新時代の山城鍛冶——三品派と堀川派——

新春特集展示

巳づくし——干支を愛でる——

新春特集展示



巳づくし —千支を愛でる—

令和7年1月2日(木)

～2月2日(日)
平成知新館 1F～2F

草花獅子蛇文様金華布製 京都国立博物館



龍葵束 漢紅地鰐文縮緬 京都国立博物館

今年の干支は巳（蛇）ですね。みなさんは蛇にどんなイメージを持っていますか？蛇は細長い体で手足がなく、二ヨロニヨロと動きます。ときどき古い皮膚を脱ぎ捨てる「脱皮」をしますね。なかには毒を持つものもあります。この不思議な生き物を見て、昔の人たちは恐ろしく思いながらも、特別な力を持つ存在だと考えてきました。

「巳づくし—千支を愛でる—」では、次の4つのテーマに沿って、作品を展示します。

今年の干支は巳（蛇）ですね。みなさんは蛇にどんなイメージを持っていますか？蛇は細長い体で手足がなく、二ヨロニヨロと動きます。ときどき古い皮膚を脱ぎ捨てる「脱皮」をしますね。なかには毒を持つものもあります。この不思議な生き物を見て、昔の人たちは恐ろしく思いながらも、特別な力を持つ存在だと考えてきました。

「巳づくし—千支を愛でる—」では、次の4つのテーマに沿って、作品を展示します。

やさしい解説文（小学校高学年）

令和7年の「干支を愛でる」もファミリー向け！



有孔鉢付土器 京都国立博物館

1 むかしむかし

その昔、まだ文字がなかった頃に作られたものにも、ヘビの姿は登場します。どんな思いを込めてヘビを表したのか、想像してみましょう。

2 ここかいへび

ヘビは、獲物を丸のみにしてしまいます。なかには毒を持っているものもいます。昔の人は、なぜそんなこわい生き物を、描いたり、時には身に着けたりしたのでしょうか。

3 ふしぎなへび

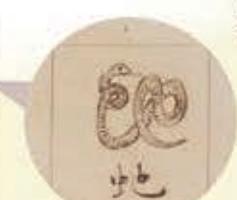
夢に出てきたヘビや、物語の中に登場するヘビなど、現実のヘビとはちょっと違う、ふしぎなヘビたちを集めました。昔の人は、ヘビの姿を借りて、何を語ろうとしたのでしょうか。



重要文化財 茶韻文書（部分）京都・路沙門堂

京博の蛇たちは展示ケースの中でおとなしくしていますので、蛇が苦手な人も安心して来てくださいね。

（水谷亜希）



重要文化財 十二類絵巻 巻上（部分）

新時代の山城鍛冶 —三品派と堀川派—

令和7年1月2日(木)～3月23日(日)

※会期中、一部の作品は展示替えを行います。

平成知新館 1F～4・6

慶長年間（一五九六～一六一五）を境に、それ以前に製作された刀剣類を「古刀」、それ以降のものを「新刀」と呼んで区別しています。これは近代以降に用いられるようになった分類・用語ですが、享保六年（一七二一）に刊行された「新刀銘尽」など江戸時代の刀剣研究を紐解くと、当初は「現代作」や「新しい品」という使われ方だった「新刀（刀）」の意味が次第に変化し、安永六年（一七七七）に川越藩士・鎌田魚妙が著した「慶長以来 新刀弁疑」を経て、最終的に前述の分類に落ち着いたことが分かります。

鎌田魚妙が慶長を時代の区切りとし、自著のタイトルにまで盛り込んだのは理由があります。平安時代から日本の文化を牽引してきた京都は、室町時代・十五世纪に勃発した応仁の乱やその後の天文法華の乱により市中が戦場となり、ひどく荒廃してしまいました。その結果、平安時代や鎌倉時代に活躍した京都の刀鍛冶（山城鍛冶）の末裔は全国に分散し、かつての勢いを失ったのです。やがて織田信長や豊臣秀吉が上洛を果たし、二条城（二条御所・旧二条城）、聚楽第、伏見城などの大規模な普請や、区画整理に着手したことで京都は再び活気を取り戻し、それに呼応して各種の工人・職人たちが移住してきました。天正元年（一五七三）から慶長二十年（一六一五）頃は、日本文化の中で最も絢爛豪華な桃山文化が花開いた時代であり、京都国立博物館ではこの期間を「桃山時代」と定義しています。刀鍛冶もその例に漏れず、全国から腕自慢の名工たちが京都に集まり、従来の山城鍛冶とは一線を画す新しい鍛冶集団を形成しました。彼ら新興の山城鍛冶の中で、ひと際存在感を放つのが美濃国関鍛冶の流れを汲む大道とその子らによる三品派と、日向国出身の国広を棟梁とした堀川派です。この展示では新刀時代を牽引した二大流派の個性あふれる名品を紹介し、新時代の山城鍛冶の魅力に迫ります。

（末兼俊彦）

名刀再臨

—時代を超える優品たち—

令和7年1月2日(木)～3月23日(日)

※会期中、展示替えを行います。

平成知新館 1F～5

この度、京都国立博物館は重要文化財の刀剣三口を含む貴重な文化財の寄贈と寄託を受けました。これら三口の重要な文化財は、日本刀の主要産地である山城・備前・備中を代表する名工の作品であるにもかかわらず、いずれも半世紀近く一般に公開されたことのない知られる優品です。中でも重要文化財「太刀 銘国安」は昭和十七年（一九四二）の重要文化財（旧国宝）指

（末兼俊彦）



重要文化財
太刀 銘備中以下切
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館
(2月26日～3月23日展示)

重要文化財
太刀 銘備前国長船住義善
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館
(1月28日～2月24日展示)

重要文化財 太刀 銘国安
(1月2日～1月26日展示)

1月からの 平成知新館 名品ギャラリー

3F～1 陶磁

【京焼における仁清・御室仁清窯跡出土
陶片の胎土分析からみる製陶技術】

1月2日(木)～3月16日(日)

3F～2 考古

【日本の須恵器と韓国の陶質土器】
【日本の考古資料】

1月2日(木)～3月16日(日)

2F～1 絵巻

【神々の伝説——八幡・嚴島】

1月2日(木)～2月9日(日)

【画中詞——絵のなかのことば】
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F～2 仏画

【十二天屏風の世界】
2月11日(火)～2月23日(日)

2F～3 中世絵画

【涅槃図】
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F～4 近世絵画

【日本の女性画家】
1月2日(木)～2月9日(日)【農耕の絵画】
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2月11日(火・祝)～3月23日(日)

2F～5 中国絵画

【塩都・揚州の繁栄と芸術】
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

（堀川派）短刀 銘日州住藤原国広
天正十七年八月日
松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館

（三品派）刀 絡吉行（坂本龍馬所用）
坂本彌太郎氏寄贈・京都国立博物館

（三品派）重要美術品 刀 銘丹波守吉謙
京都国立博物館

雛まつりと人形

令和7年2月15日(土)～3月23日(日)

平成知新館 1F～2

雪解けの水も温み、本年もまた雛の時節がめぐってきました。

雛まつりは「上巳の節句」ともいいます。古く中国では、三月初めの巳の日を上巳とよび、後に三月三日を上巳と定めて、不祥（めでたくないこと、不吉・不運なこと）を祓う禊の行事を行っていました。それが日本にも取り入れられ、朝廷や貴族は川辺で祓を行い、曲水の宴を催すようになりました。そこでは紙などの簡素な素材で作られた人形が、人間についた穢れを引き受ける形となり、水に流すなどして捨てられていたようです。現代でも「流し雛」にその様子をうかがうことができます。この習俗が、やがて子ども



御殿雛飾り 横山経治氏寄贈・京都国立博物館

御所人形 手綱持
京都国立博物館

有職立雛(狩衣姿) 京都国立博物館



次郎左衛門坐雛 入江波光コレクション 入江西一郎氏寄贈・京都国立博物館

—袁江・王雲筆「樓閣山水図屏風」
1月2日(木)～2月9日(日)
—須磨弥吉郎の蒐集品より
2月11日(火・祝)～3月23日(日)

【新春特集展示】
1月2日(木)～3月23日(日)

【京都の仏像・神像】
1月2日(木)～3月23日(日)

【特別展示】
1月2日(木)～2月2日(日)

【新春特集展示】
1月2日(木)～3月23日(日)

【千支を愛でる】
1月2日(木)～2月2日(日)

【新春特集展示】
2月15日(土)～3月23日(日)

【新春特集展示】
1月2日(木)～2月2日(日)

【墨蹟】
1月2日(木)～2月9日(日)

【紺紙経】
1月2日(木)～2月2日(日)

【特別展示】
1月2日(木)～3月23日(日)

※3F-1・2は3月18日～23日、1F-2は2月4日～14日が閉室となります。

日本、美のるつぼ —異文化交流の軌跡—

令和7年4月19日(土)～6月15日(日)

[主な展示館] 初期展示：4月19日(土)～5月19日(日)

後期展示：5月20日(火)～6月15日(日)

※会期中、一部の作品は石記以外にも展示を行います。

【平成知新館】

私たちがイメージする日本美術の歴史は、十九世紀末から二十世紀初めに盛んに催された万国博覧会に深く関わっていることをご存知でしょうか。

明治時代になると、「日本」がひとつの中として明確に意識されるようになります。国家として初めて参加した明治六年（一八七三）のウイーン万博では、「美術」の概念がドイツ語から翻訳して取り入れられました。そして「日本美術史」が公式に編まれたのは明治三十三年（一九〇〇）のパリ万博のときです。このとき、諸外国に向けて日本美術を紹介する豪華本が製作されました。西洋の美術史に倣い、絵画、彫刻、宗教美術、アカデミズムが上位におかれ、政治史に呼応する時代区分が採用されました。万博がなければ、今のよつた日本美術史が誕生する。ともなかつたのかもしれません。

近代日本が世界と出会うなかで整えられた日本美術史という視点のほかにも、この展覧会では、古代の朝鮮半島との関わり、シルクロードを通じた文物の伝来、仏教東漸、禅宗文化の流入とともに唐物の珍重、大航海時代のグローバリズム、黄檗の到来による江戸時代の新たな中国趣味など、各時代における異文化交流の軌跡をたどります。みなさまがよくご存知の名品も「交流」という観点から見ることで、またがう魅力を放つことでしょう。

明治時代には日本らしさを強調することが大切でしたが、令和の国立博物館は多様性と共生をめざす国際社会のなかにあります。世界の人びとと共に楽しめる展覧会をめざします。

(永島明子)

よみもの

極楽浄土と蝶

まだ小学生だったある春の日、ワンピースの小花柄にモンキチヨウがとまつた。それ以来ずっと蝶が気になつていて、深い光沢を帯びた天鵞絨のよくな翅は「森の宝石」の称号にふさわしく、幼虫から蛹となり、羽化して飛び立つ変態過程も神秘的だ。ふわりと飛翔する姿を追つてみると、ふと時空のあわいに迷い込んだかの心地がする。

先ごろ訪れた韓国中央博物館では、特集展示「朝鮮絵画の中の花と蝶」を担当した研究員さんと日韓の蝶について話す機会があった。現地ではインフルエンサーの間で「ナビ（韓国語で蝶の意）アイテム」が流行中らしい。人気の韓流ドラマでも蝶は物語のキー要素として登場するようだ。そして

朝鮮絵画の蝶は夫婦和合や富貴榮華の象徴、あるいは長生の祈念として描かれることが多い。中国の吉祥图案の蝶と解釈は概ね共通している。とはいっても蝶といえ、中国の蝶といえば、やはり「莊子」齊物論篇「胡蝶の夢」であろう。かつて莊周が夢で蝴蝶となつたという一節、夢と覚、己と他、生と死といった相対や区別を越えた「万物齊同」の境地と、「物化」つまりある物が他の物になる生成變化に「道」を説く。どうやらこの「夢幻の世界に遊ぶ蝶」「人間の化身としての蝶」のイメージは洋の東西を問わないらしく、古代ギリシア語の「ブシユケ」は息、魂、心の意であると共に蝶をも意味し、ギリシア神話に登場するエロス（クビードー）の美しい妻「ブシユケ」は、背に翅を持つ

て表される。日本もその例に漏れず、蝶や蛹を靈魂の顯れとみる民間信仰が、古くより全国に存在していた。

ところどころのような普遍的無意識的な蝶觀とは別に、平安から鎌倉時代の一時期、蝶は鳥と組み合わされた「蝶鳥文様」として盛行し、とりわけ天皇や貴族の周辺において特別な記号として機能していたことをご存じである

京都国立博物館主任研究員 山内麻衣子

うか。かつてこの文様は、「源氏物語」胡蝶巻に描かれた舞楽の「胡蝶」と「迦陵頻」の番舞に由来するとされ、その典拠は極楽浄土にあると指摘されていた。ところが大藏經を通して観察したところ、確かに「迦陵頻（迦陵頻伽）」は「阿弥陀經」に「極樂國土の靈鳥」と記されるが、「胡蝶（蝶）」は「大乘理趣六波羅密多經」等に「畜生道にある虫類」として分類されるに過ぎず、經典にその典拠は見いだせない。もっとも日本人の往生觀を形成せしめた「往生要集」（九八五）をみると、蝶は虫類に含まれてはおらず、幾分好意的な視線も感じられるのだが、いつたい何ゆえ蝶は極楽浄土を莊嚴する存在に成り得たのだろうか。

答えは「源氏物語」胡蝶巻の仙境、表現にあった。舞台となる光源氏の六条院は「生ける仏の御園」つまり極楽浄土であり、「世になき」「唐めいたる」「知らぬ國」といった非日常的、異國的な空間として、憧れの先進国である中國・唐のイメージが重ね合わされた。そしてその世界は、王賀爛柯・劉阮天台・桃源郷の三つの仙境故事を引用しつつ、華やかな漢語の修辞で讃えられた。「白氏文集」牡丹芳の「戲蝶双舞看人久 残鶯一声春日長」をはじめ、隋・唐代の漢詩には、蝶と鳥とが対句として盛んに詠み込まれている。胡蝶巻の蝶鳥の組合せは、その影響によるものだろう。ここに「極楽浄土+仙境+唐」の三要素が織り成す理想郷が創出され、「極楽浄土に蝶」のイメージが誕生したのである。この蝶鳥の組合せは極楽浄土を莊嚴するだけでなく、天皇の聖域や神の神域などの結界を示す「境界の装置」として機能していた点も興味深い。

舞楽の蝶鳥の舞手らは、法会において衆生を仏の淨土へと繋ぐ伝供の役割を担う。日本においては蝶も仏の世界へと導いてくれるはずなのである。



国家 宝相華遊舞相思醉椿捲 奈良・建仁寺



国家 宝相華遊舞相思醉椿捲 奈良・建仁寺

Histoire de l'Art du Japon (日本美術史)
巴里万博開幕時博覽會書籍出版
京都国立博物館 (販賣あり)重要文化財 舞伎太子像
京都・仁和寺
(4月19日～5月18日展示)重要美術品
埴輪 武士を抱ぐ男子
佐野馬鹿太田市福原町出土
京都国立博物館

◆ キャンバスメンバーズ

申令和6年12月末現在

株式会社 俄 / ZESSO LTD. 株式会社
「シリバ」 学校法人 二本松学院
東レエンジニアリング株式会社

フロンズ 原田清朗 / 片山明 / 伊藤正人

株式会社 GORE-TEX ホールディングス

「京都国立博物館の賛助会員制度です。皆様の活動に

ついて幅広く支援いただいている

います。

申令和6年12月末現在

京都国立博物館の賛助会員制度です。皆様の活動に

講座・イベント

《土曜講座》

1月11日(土)「唐代金銀器の諸相」

京都国立博物館館長 松本伸之

1月18日(土)「技法書「陶工必用」と御室仁清窯跡出土陶片」

京都国立博物館上席研究員／保存科学室長 降幡順子

1月25日(土)「巳づくし—蛇を表す・蛇で表す—」

京都国立博物館主任研究員 水谷亞希

2月1日(土)「新時代の山城鍛冶—三品派と堀川派—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

2月8日(土)「古墳時代の武装—日本文化における武威の源流—」

京都国立博物館研究員 古谷 殿

2月15日(土)「名刀再臨—時代を超える優品たち—」

京都国立博物館主任研究員 末兼俊彦

2月22日(土)「絵巻における絵と詞」

京都国立博物館主任研究員 井並林太郎

3月1日(土)「雑まつりの装い」

京都国立博物館主任研究員 山内麻衣子

3月8日(土)「墓誌の時代—小野毛人墓誌と咸奈大村墓誌をめぐって—」

京都国立博物館特任研究員 宮川禎一

3月15日(土)「ロクロ回転でたどる桃山陶工の足跡

—美濃・唐津・高取技術交流論—」

京都国立博物館学芸部長／工芸室長 尾野善裕

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料(ただし講演会当日の観覧券等が必要)。

※当日9時30分より、平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。

《芸舞妓 春の舞》

日時：令和7年1月19日(日) 11時～、13時～ *各回約30分

会場：平成知新館 講堂 定員：各回200名

参加費：無料(ただし、当日の観覧券等が必要)

参加方法：12月10日(火)10時より、ウェブサイトよりお申し込みください。事前予約優先制。先着順、定員になり次第受付を終了します。

https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/event/20250119_spr-dance/

《留学生の日》

京都国立博物館では、留学生の方々に日本文化への理解を深めていただくため、「留学生の日」を設けています。今年度は令和7年2月23日(日・祝)に実施します。留学生の方は、学生証をご提示いただくと、無料で名品ギャラリー(平常展示)をご観覧いただけるほか、音声ガイドの無料貸し出しやトラリんのノベルティグッズプレゼントを予定しています。この機会にぜひご来館ください。

《京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～vol.68》

日時：令和7年3月2日(日) 13時30分開演(13時開場)

会場：平成知新館 講堂 定員：200名

出演：桂りょうば 桂米輝 桂八十八 <中入> 桂紅雀 桂塩鯛

入場料：3200円(全席自由／キャンバスメンバーズ(含教職員)は学生証提示または教職員証提示により2600円)

※当日は、本公司のチケットで名品ギャラリー(平常展示)をご覧いただけます。

※チケットは12月11日(水)より、当館南門チケット売場、またはローソンチケット(Lコード: 51547)にて販売。

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/events/rak/vol68/>

これからの展覧会

◆大阪・関西万博開催記念 特別展

日本、美のるつぼ—異文化交流の軌跡—

令和7年(2025)4月19日(土)～6月15日(日)

◆特別展

宋元仏画—蒼海を越えたほとけたち

令和7年(2025)9月20日(土)～11月16日(日)

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展とその前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー休止期間：12月3日(火)～12月28日(土)

令和7年3月25日(火)～4月17日(木)

*上記期間中は庭園のみ開館となります。

ご利用案内

[開館時間] <12月3日～令和7年4月17日>

9:30～17:00

*金曜日は20:00まで開館

*入館は各閉館の30分前まで

[観覧料] 【名品ギャラリー】

<令和7年1月2日～3月23日>

一般700円、大学生350円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンバスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子が

つきます。

[庭園のみ開館期間]

<12月3日～12月28日>

<令和7年3月25日～4月17日>

一般300円、大学生150円

*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

*キャンバスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子が

つきます。

[休館日] 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、12月29日(日)～令和7年1月1日(水・祝)

アクセス

JR=京都駅下車、市バスロ2のりばより206・208号系統にて博物館三十三間堂前下車すぐ

プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

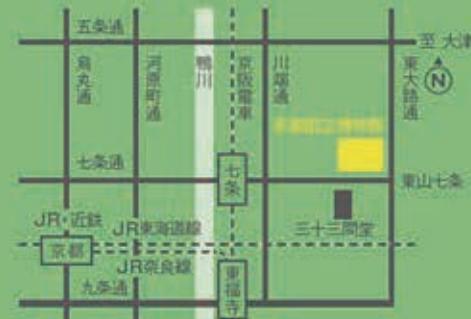
近鉄電車=近鉄丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

*[博物館だより]を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は140円、長3封筒は110円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申込みください。



公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/>

X (旧Twitter)・Instagram
@KyotoNatMuseum



トラリん公式サイト

<https://www.kyohaku.go.jp/jp/torarin/>

TEL 605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

発行日 令和7年1月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館
KYOTO NATIONAL MUSEUM

